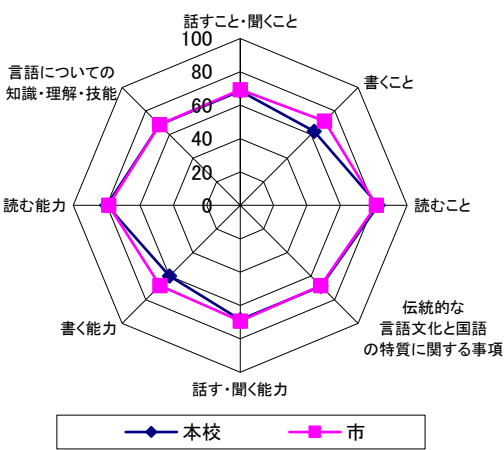


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.5	69.3	73.4
	書くこと	62.6	71.3	74.6
	読むこと	82.7	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.5	69.3	73.4
	書く能力	59.8	68.1	71.7
	読む能力	79.9	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	68.4	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

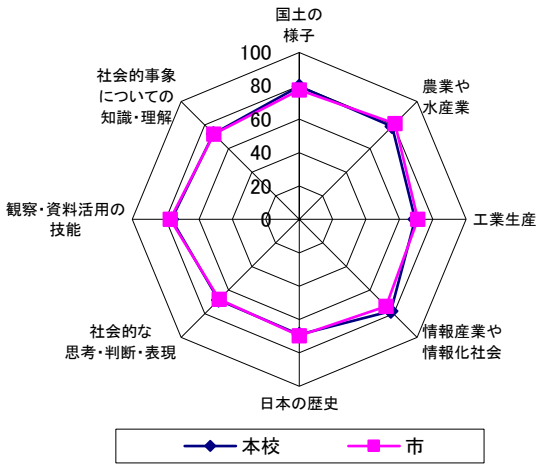
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●本校の平均正答率は68.5%で、市の平均を0.8%下回っている。特に、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる問題の正答率が低く、課題が残る。 ○話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞く問題の正答率は高かった。	・グループでの話し合い活動や、みんなの前で自分の考えを発表する活動を通して、「話す」力は身に付いてきている。 ・「聞くこと」については、国語の授業のみならず、様々な場面を通して学ぶ機会がある。その中で、話し手が伝えたいことを意識して聞く習慣をこれまで以上に付けさせていきたい。また、聞いたことをメモにまとめる活動も意図的に取り入れていきたい。
書くこと	●本校の平均正答率は62.6%で、市の平均を8.7%下回っている。特に、理由や事例を挙げて文章に書く問題の正答率が低かった。 ○国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を理解する問題の正答率は高かった。	・文章の構成を考えながら、自分の意見を明らかにして文章を書く活動を充実させていく。 ・説明文の教材では、理由や事例を挙げながら、読み手に伝わるように自分の意見を書くことができるようにしていく。
読むこと	○本校の平均正答率は82.7%で、市の平均を1.2%上回っている。特に、前後の文脈から言葉の意味を読み取る問題の正答率が高かった。 ●説明文の構成を理解し、内容を的確に読み取る問題の正答率が低かった。	・図書室の様々な分類の本を読んだり、本を読み聞かせたりする機会を増やし、物語や説明文に身近に触れる環境をつくる。 ・説明文の教材では、段落分けや序論・本論・結論の内容の読み取りなどの指導を、更に充実させていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は68.5%で、市の平均を0.4%上回っている。特に、漢字を読むことの正答率が高かった。 ●漢字を書く問題は、正答率が低かった。	・学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用するなど、繰り返し学習の充実を図る。 ・既習漢字の復習を行う機会を積極的に設ける。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.7	77.5	74.0
	農業や水産業	78.8	81.1	73.7
	工業生産	69.4	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	77.8	73.7	63.2
	日本の歴史	69.0	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.2	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	76.5	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	72.6	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

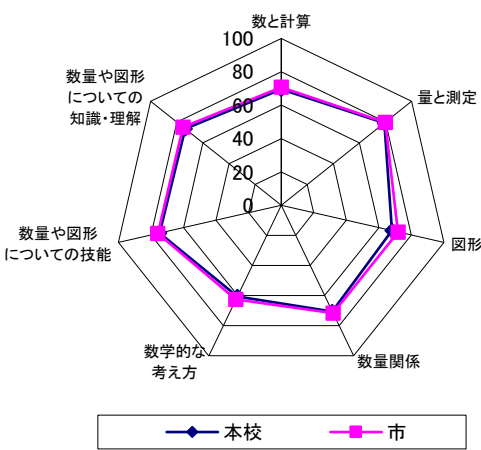
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○平均正答率は、79.7%であり、市の平均より2.2%上回った。「防災マップや会話文を参考に、自然災害がおきた際の自助の大切さについて考えて表現する」設問では市の平均を上回っている。また「日本の気候の様子について説明にあてはまる雨温図と都市の位置を判断することができる」の設問でも市の平均を上回る。 ●単元については、平均正答率が市の平均よりも上回るものの課題は多くみられる。	・地図に慣れ親しみ、新出の地名に関しては、その位置を地図で確かめたり、言葉と地図を一致させるように、今後も指導を重ねていく。また、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを深めるため、防災教育の授業を組み入れるなどして指導していきたい。
農業や水産業	●農業や水産業の領域すべてにおいて市の平均を下回っており、平均正答率は78.8%と市の平均より2.3%下回っている。とくに「農業で働く人々がかかえる問題について、複数の資料から読み取り考えて、表現することができる。」の設問に関しては、平均を8%と大きく下回っている。	・既習領域においても、資料を適切に読み取り設問に合う回答に達するよう、繰り返し指導していく。また、記述式の回答に対しても、言葉を選択しその内容に沿う文脈で説明できるよう指導していく。
工業生産	○工業生産の「工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考えることができる」の設問では5%市の平均を上回っている。 ●全体の平均正答率は69.4%と市の平均より1.7%下回っており、「科学工業の製品について理解している」の設問に対しては、8.2%と大きく下回っている。	・工業生産に関して、工業地帯や工業地域の立地など、資料を提示し興味・関心を引き出せるよう努めたい。また、それに合わせて工業地帯などを明記させるなどして、ノート作りの工夫をしやすいよう指導していきたい。
情報産業や情報化社会	○平均正答率は77.8%であり、市の平均より4.1%上回っている。 ○身の回りのメディアについては、平均正答率は80.6%と市の平均を8%上回る。 ●「医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考えることができる」の設問では市の平均を1.1%下回っている。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識を高めながら、確実に定着しさらに自ら判断できるよう指導していきたい。
日本の歴史	○平均正答率は、69.0%と市の平均より0.7%下回ってはいるものの、設問によっては高いものもある。 ●全体的に歴史の平均回答率が低く、とくに無回答(無記入)が20%を超えるものがある。今後の課題の一因となる。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせたりしながら、事象をしっかりと捉え、その時代の様子や繋がりを把握することができるよう指導を重ねていく。また、日本の歴史の領域では記述式の回答に課題が見られるので、教科書や資料集などを通して单元ごとに課題を明確にする。さらに日常のノート指導などを通してノートのまとめ方などを指導していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.6	70.8	65.9
	量と測定	79.2	79.9	77.0
	図形	68.1	71.8	74.6
	数量関係	70.6	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	60.6	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	74.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	73.5	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

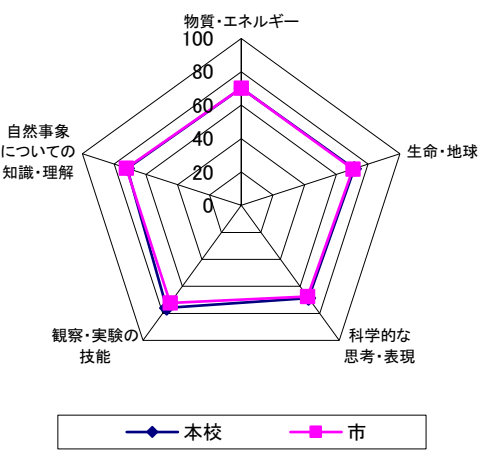
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本校の平均正答率は69.6%で、市の平均を1.2%下回った。 ○問題の場面を理解し、式の表しているものを選ぶ問題や、求めた答えが示された条件と矛盾することを説明する問題では、市の平均を6～7%上回った。 ●分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、市の平均を8.4%下回った。	・プリントやドリル等を活用し、計算問題を繰り返し練習する。特に小数点の位置の決め方や、分数の計算における通分、約分の方法を確認し、定着を図る。 ・分数のわり算の意味理解では、線分図や面積図により説明する活動を取り入れてきたが、再度復習し一層の深化を図る。
量と測定	●本校の平均正答率は79.2%で、市の平均を0.7%下回った。 ○ひし形の面積を求める式についての問題では、市の平均を3.9%上回った。 ●図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題では、市の平均を8.5%下回った。	・単位量あたりの大きさに関する問題では、出された答え(商)がどのような意味をもち、最終的に出題された意図に合うか判断するまでの一連の思考が促されるような指導に努める。 ・公式のみにとらわれず、式と図を関連させながら継続して指導にあたる。
図形	●本校の平均正答率は68.1%で、市の平均を3.7%下回った。 ○合同な三角形を作図する問題では、市の平均を2.3%上回った。 ●線対称な図形の対象の軸についての問題では、市の平均を15.9%下回った。	・三角形から始まり、角を1つずつ増やしながら内角の和がどのように増えていくのかを表に表すなどして帰納的に考える活動で復習を行う。 ・線対称な図形においては、折り紙や画用紙等を活用することにより、体験的に対象の軸の場所や本数が分かるように指導していく。
数量関係	●本校の平均正答率は70.6%で、市の平均を1.1%下回った。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均を5%上回った。 ●もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが、比べる量が多くなることを具体的に説明する問題では、市の平均を5.3%下回った。校内正答率は今回の設問内で最も低い29.2%であった。	・単に答えを求めるだけでなく、求める途中の過程や思考を大切にする。自分の考えをノートやホワイトボードにまとめる活動を取り入れることで、説明する力を育てる。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.2	70.3	69.0
	生命・地球	71.2	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	68.8	67.5	66.4
	観察・実験の技能	75.9	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	71.8	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●本校の平均正答率は70.2%で、市の平均とほぼ同じであった。 ●もののとけ方の学習においては、授業で実験を行った問題について、正答率が高いものもあったが、低いものも見られた。 ○ふりこのきまりの学習では、ふりこの周期とふりこの長さの関係を、よく理解できていた。	・実験をする際は、事前に予想を立ててから実験し、結果からどのようなことが分かるかを、しっかり考察させていく。 ・もののとけ方や電流のはたらきについては、学習した内容が自分たちの身の回りでも使われていることに気づかせ、学習した知識と日常生活との関連を図る。
生命・地球	○本校の平均正答率は71.2%で、市の平均を0.8%上回っている。特に、植物の発芽と成長の問題の正答率が高かった。 ●月と太陽の学習においては、太陽の特徴については理解しているものの、月と太陽の位置関係についての正答率は低かった。	・植物のつくりやはたらきの学習など、実験で確かめることができる内容に関しては、よく理解できている。一方で、調べ学習が中心の問題については、正答率が低いものも見られる。より実感を伴って理解できるよう、映像資料や教具を活用するなど、教材の工夫を行っていく。